

イザナキから会う？ ムラサキノウエから会う？



伊耶那岐命



紫の上

ヒーロー&ヒロインに会おう!

古典を楽しむ きっかけ大図鑑

監修◎齋藤 孝

全3巻

藤原道長

朧月夜の君

大国主神

- いざなきのみこと 伊耶那岐命 (古事記)
- おおくにぬしのかみ 大国主神 (古事記)
- ひかるげんじ かぐや姫 (竹取物語)
- むらさきうえ 光源氏 (源氏物語)
- おぼろつきよ 紫の上 (源氏物語)
- ふじわらのみちなぎ 朧月夜の君 (源氏物語)
- あべのせいめい 藤原道長 (大鏡)
- たいらのきよもり 安倍晴明 (古今著聞集)
- いっすんぼうし 平清盛 (平家物語)
- てんにん 一寸法師 (一寸法師)
- たろうかじゅ 天人 (羽衣)
- ふせひめ 太郎冠者 (附子)
- またはち 伏姫 (南総里見八犬伝)
- いしかわごえもん 喜多八 (東海道中膝栗毛)
- むさしぼうべんげい 石川五右衛門 (楼門五三桐)
- むさしぼうべんげい 武蔵坊弁慶 (勤進帳)

ほか、全54人 (43作品)

古典学習の
スタートは
この図鑑から!

古典の世界のヒーロー&ヒロインが大集合! ひと目で作品世界が見わたせる、 絶好の古典ガイドの誕生です!

●ヒーロー&ヒロインとクライマックス・シーンがひと目でわかる!

総勢14名のイラストレーターによる多彩な表現で、新しいヒーロー&ヒロイン像を描いています。一気に作品世界に近づけ、豊かな古典世界に親しむ「きっかけ」が生まれます。

この本の特徴

1 日本の古典文学作品と能、歌舞伎、狂言、浄瑠璃、落語など古典芸能作品のなかから、魅力ある主人公や登場人物の一人をヒーロー、ヒロインとして選び、作品世界とともに、時代別3巻に分けて紹介します。

※人物は各巻18人、総計54人。「源氏物語」や「平家物語」など1作品から2~4人採るものも数点あり、作品数は総計43。

2 ヒーロー、ヒロインの人物像や作品の一場面をイラスト中心に描き、ほかの登場人物や作品全体を把握できるよう1作1見開きで構成します。

3 ヒーロー、ヒロインの性格やプロフィール、作品のあらすじや場面の説明はわかりやすく簡潔な文章でまとめています。コラム欄では作者や作品背景など、基本的な古典知識を伝えます。

4 対象は小学校中学年以上ですが、低学年の児童も楽しめるよう、漢字は総ルビにしています。小・中学校の国語の教科書でとりあげられている作品や作家も含まれています。

5 巻末には、作品を楽しむための資料、年表、読書案内、索引を付しています。



『古今昔聞集』より

●プロフィール

ヒーロー&ヒロインの性格や暮らしなどの情報を紹介します。

●あらすじ

作品のあらすじを簡潔に伝えます。



『源氏物語』より

●おもな登場人物

ヒーロー&ヒロインとかかわり、物語を彩るおもな登場人物を紹介します。

●注

むずかしいことばの説明や内容の補足、作品についての情報などを説明します。

『源氏物語』② 巻5 若紫

紫の上

わたしは、紫の上

父は兵部卿宮、母は按察大納言の娘。光源氏が慕っている藤壺の姪にあたります。生まれて間もなく母が亡くなり、祖母の尼君と、その兄の僧都のいる北山の庵で暮らしていました。光源氏と出会った紫の上は、その美しい様子を忘れられず、幼心に源氏を恋したようになります。やがて光源氏の正妻となります。

プロフィール

- ◆発見: 躰立ちが少女のころからかわいらしく、きわだっていた。
- ◆結婚: 14歳で光源氏と結ばれる。
- ◆悩み: 成人後、子どもをもてなかったこと。
- ◆願い: 出家を望むようになった。
- ◆喜び: 養女として引き取った女一宮(明石の姫君)の成長。
- ◆最期: 37歳で発病し44歳で亡くなる。



あらすじ

光源氏が18歳のころ、病氣治療のために北山にやって来ました。そのとき源氏は、自分が心から慕っている藤壺にそっくりな10歳くらいのかわいらしい少女(紫の上)を、ある僧都の庵の垣根越しに見つけます。源氏は、僧都から少女の身の上を聞くと、自分が彼女を引き取って育てたいと申し出ますが、紫の上が幼すぎるので、と祖母の尼君に断られます。さて、藤壺というのは帝の妻で、光源氏の継母です。藤壺を愛していた源氏は、彼女が病気で実家へ帰っていたときに会いに行き、強引に思いをとげます。藤壺は妊娠し、何も知らない帝は、さっへん喜ばれますが、源氏は自分の子ではないかと不安になります。

そのころ、北山では、紫の上の母親がわりだった尼君が亡くなります。光源氏は、父宮に引き取られることになっていた紫の上を、暮らそうに自分の屋敷(二条院)に迎え入れます。源氏に守られ、紫の上の新しい生活がはじまります。

※1 紫の上の名は成長してからのもので、『若紫』の巻では「若紫のような姫君」と呼ばれる。『源氏物語』で紫の上が登場するのは、巻5(若紫)~33(藤壺), 34(若紫上)~41(宣)。



「雀の子を犬君が...
伏籠の中に籠めたりつるもの...
いと口惜

光源氏

時の帝・桐葉帝の第二子。美しい真公子。

尼君

紫の上の親代わり。

光源氏が、小紫垣越しに内御をのぞいていると、少女(紫の上)が泣きながら走ってきました。尼君がなぜ泣いているのかをたずねたところ、少女は、伏籠の中に入れておいた雀の子を、召し使いの童女が逃がしてしまったからと言って残念がります。少女は、眉のあたりがぼんやりして、子どもらしい額の髪の生えざわがとてもかわいい。光

コラム 『源氏物語』の作者・紫式部

平安時代中期の物語作者、歌人。生没年不詳。誕生は、970年、973年などの説がある。父藤原為時、母は藤原為信の娘。本名は不明。中では「藤式部」と呼ばれていたが、『源氏物語』が有名になり「紫式部」と呼ばれるようになった。3人の子どものちに日本書紀、万葉集の編纂をめぐって争って死んだ石川右衛門は、或説で文政に神す箱)と号す。久次の家業の此村天保之の正体は紫藤。しかし、頭みまだ見ぬわが子へ託した書を受け取った石川五と知って、父宮への復讐の

※2 紫の上はだれよりも長く光源氏に愛され、

※1 この挿話は藤原氏の歴史のため、最期の挿話

